

第5回猪苗代町議会定例会 町長説明要旨

開会：令和3年9月7日(火)

本日、令和3年第5回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、何かとご多用の中ご出席いただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

今議会が開催されるに当たり、令和2年度各会計に係る歳入歳出決算の認定案件、令和3年度一般会計並びに各特別会計の補正予算、条例の一部改正等、そして、教育委員・固定資産評価審査委員の任命に係る人事案件など、重要な議案等を提出しておりますので、慎重なるご審議をお願いすると共に、議員各位のご理解とご協力を併せてお願い申し上げます。

提出議案の説明に先立ち、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げます。

(新型コロナウイルス感染症対策について)

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策について申し上げます。

これまで、感染症対策の最前線で、ご尽力いただいている医療従事者の皆さんをはじめ、感染症対策に携わる全ての方々に、改めて深く敬意と感謝の意を

表します。

また、長期間にわたり、感染防止対策に取り組んでいただいている 町民の皆さん、事業者の皆さんに、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染状況につきましては、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の適用地域が拡大している状況にありますが、全国各地において過去最多の新規感染者数を更新するなど、これまでに比較できないペースで感染が拡大しております。

県内においても、まん延防止等重点措置が初めて適用され、福島県独自の非常事態宣言も同時に発出された状況にあり、この記録的な感染拡大により、医療提供体制もひっ迫している状況にあります。

このような中、本町におけるワクチン接種状況につきましては、優先接種対象者の接種が完了し、現在、一般の方々への接種を進めており、今後も希望される町民の皆さんに、安心して接種していただけるよう、各医療機関のご協力をいただきながら、継続して取り組んでまいります。

県内における感染状況も全国と同様 危機的な状況にあり、今後も町民の皆さんや事業者の皆さんには、ご不便やご苦労をおかけいたしますが、地域の方々の健康と安全を守るため、引き続き、関係機関と連携し、感染防止対策に全力で取り組んでまいりますので、更なる、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

（総合防災訓練について）

次に、本年度実施を予定しておりました総合防災訓練について申し上げます。

町では、災害対策基本法及び地域防災計画に基づき関係機関と緊密な連携のもと、災害時における各種の対応が迅速かつ確実に実施できるよう 防災体制を確立すると共に、近年 多発する甚大な自然災害に備えて 地域住民の防災意識の高揚を図るため、隔年開催とし 総合防災訓練を実施しております。

本年度は、令和元年度に引き続き訓練を実施する年でありましたが、福島県がまん延防止等重点措置の適用を受ける事態となったことから、本年度の実施を見合わせることにいたしました。

しかしながら、各種災害は待ってくれないので、日頃から、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた中での 二重災害の発生を想定し、万全の準備を整えてまいりますので、町民の皆さんのご協力をお願い申し上げます。

（農業情勢について）

次に、農業情勢について申し上げます。

本町農業の基幹作物であります水稻の生育状況がありますが、民間の米穀データバンクが発表した7月31日現在の作柄予想によりますと、全国の作況は

「１０２」の「やや良」、福島県は「１０３」で同様に「やや良」の予想となっております。

本町でも、田植え後から梅雨明けまでは、平年に比べ曇りや雨の日が多く 日照不足となったことから生育の遅れが見られておりましたが、例年より早い７月中旬の梅雨明け以降、天候にも恵まれ、生育の遅れも回復し、穂の出も早く、豊作を期待しているところであります。

なお、国内の米の動向に目を向けてみますと、人口減少や食文化の多様化、さらに、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大による 業務用需要の大幅な減少などにより、国内の米 消費量の大幅減少と在庫増加のため、今年産米の「主食用米」の米価下落が心配されております。

これらの対策といたしまして、福島県や会津よつば農業協同組合、生産者団体などの関係機関と連携し、また、農業者の皆さんのご協力をいただき、「備蓄米」並びに「飼料用米」、「加工用米」の取り組みを強力に推進し、「主食用米」の生産量の調整と共に、国の交付金制度を活用した、農業者の所得安定の確保を図ってきたところであります。

今後も、農業所得の安定と向上を目指し、その年その年の状況や条件を加味して 機動性のある本町農業の振興に取り組んでまいります。

（鳥獣害対策について）

次に、鳥獣害対策について申し上げます。

はじめに、ツキノワグマについてであります。今年度会津管内では、５月から７月まで３件の人身被害が発生しております。また、福島県では、県内の出没多発を受け、クマ出没特別注意報を７月末まで発令したため、町としても警戒を強めてきたところがあります。

本町においても春先から目撃はありますが、昨年度に比べると出没は少ない傾向にあります。幸い人身事故は発生しておりませんが、悪質な出没については有害鳥獣捕獲にて対応しており、８月２５日時点での捕獲数は９頭と、昨年同期と同数でありました。

また、８月２５日時点でのニホンザルの捕獲数は１０頭、イノシシは２２頭となっております。

鳥獣害から農作物等の被害を防止するには、緩衝帯整備などの生息環境管理、花火等による追い払い・侵入防止柵設置などの被害防除、更には、個体の有害捕獲といった対策を総合的に取り組むことが重要であります。

今後も、メールマガジンによる的確な情報提供や電気柵等設置補助事業を推進すると共に、有害鳥獣駆除員の方々と連携しながら、住民の皆さんと一緒に鳥獣害対策に取り組み、継続的に支援してまいります。

（第 2 5 回猪苗代新そば祭りについて）

次に、「猪苗代新そば祭り」について申し上げます。

毎年、秋に、猪苗代町総合体育館カメリーナで開催しておりました「新そば祭り」ですが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年は開催方法を変更させていただき、1,000円で1,500円分の「そば」を楽しめる「プレミアム新そば券」を販売し、町内のそば店で「新そば」を楽しんでいただく形態での新たな「新そば祭り」を開催したところであります。

本年度につきましても、昨年度同様、町内そば店のご協力をいただき、猪苗代産そば「いなわしろ天の香」を含め、「猪苗代 蕎麦の里」を県内外に広くPRすることを目的に、本町へ ご訪問された皆様を「おもてなしの心」でお迎えすると共に、関係団体と力を合わせ、新型コロナウイルス感染防止対策を十分講じながら、万全の態勢で「第25回 猪苗代新そば祭り」を開催してまいります。

（観光振興対策について）

次に、観光振興対策について申し上げます。

本年1月から6月までの道の駅猪苗代を含む本町の主な観光施設の延べ入込客数は約74万人で、前年同期の約71万人と比較すると約3万人、率にして約104.2%のわずかな増加となっております。

主な要因としては、新型コロナウイルス感染症の

収束時期が見通せず、観光誘客の自粛が長期化している状況ですが、全国的に徐々にワクチン接種が進み始め、経済活動再開の動きが少しずつ見られるようになってきたことにより増加したものと考えられます。

今年は昨年比べ 梅雨明けが早く、猪苗代湖など、7月の入込客数は増加傾向にあるものの、県内の急激な感染拡大により、8月上旬には、県独自の非常事態宣言が発令され、予定しておりました天神浜での「あいづ サマー スカイ フェス」開催については、延期とされたところであります。

これから、紅葉 並びに スキーシーズンを迎えますので、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した秋のイベント開催や冬期間における観光情報発信の充実を図りながら、観光誘客に努めてまいります。

（風評被害対策について）

次に、風評被害対策について申し上げます。

復興支援イベントとして位置付けております「いなわしろ花火大会」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、実行委員会では既に延期を決定しております。

感染症拡大の長期化が予想される状況ではありますが、震災後、特に低迷している教育旅行の回復を図るため、バス代を助成する 教育旅行支援事業を実施しているところであります。今年は春先から問い

合わせも多く、バス助成費予約件数では当初 6 1 5 台から 2 2 3 台増の 8 3 8 台、更に 旅行代理店への助成費予約件数では当初 2 4 0 校から 3 3 校増の 2 7 3 校の予約状況となっております。

現在 新型コロナウイルスの収束が見込まれない中、予約のキャンセルも予想されますが、旅行バスの台数増加分の費用を増額助成するなど、今議会において補正予算を計上し、教育旅行の回復と風評被害の払拭に努めてまいります。

（緊急経済対策について）

次に、緊急経済対策について申し上げます。

長期化が予想される新型コロナウイルス感染拡大の影響については、特に、観光客などの減少により、景気低迷が続いており 事業者の皆さんは大変厳しい状況にあります。金融支援としては、町内金融機関に預託している貸付金を 運用資金として活用いただく 中小企業経営長期安定資金融資など、制度資金の運用と併せて、信用保証料補給及び利子補給制度による補助金の交付に努めているところであります。

金融支援のほか、町内の経済対策として、全町民の皆さんに、1 人当たり 5 千円分の町民応援商品券を配布し、新型コロナウイルス感染症対策と町内事業所の経営維持に努めております。

しかしながら、収束の兆しが見通せない状況が続き

ますので、秋から年末年始にかけて行います「中小小売店活性化事業、プレミアム商品券発行事業」につきましては、当初10パーセントとしたプレミアム率を20パーセントに引き上げて、町内の消費拡大を図るため、今議会において補正予算を計上し、更なる経済対策に努めてまいります。

（防災道の駅について）

次に、防災道の駅について申し上げます。

道の駅猪苗代は、地域経済活性化及び総合観光案内のみならず、防災機能も有した施設として**重点道の駅**に選定されており、本町の地域防災計画においては、防災拠点施設に指定しております。

また、県の地域防災計画においても、広域的な防災拠点に位置付けられており、大規模災害時における派遣部隊の受け入れや、ヘリポートを活用した緊急物資の輸送など、復旧・復興活動の最前線基地として活用される計画となっております。

このようなことから、道の駅猪苗代は、本年6月に全国で39駅の一つ、県内では唯一の**防災道の駅**として国土交通省から初めて選定されました。

今後は、道の駅猪苗代の広域的な防災機能について、ハード・ソフトの両面にわたり、より一層の強化・拡充を図るため、国・県・関係機関と協議を重ねてまいります。

（統合中学校整備事業について）

次に、統合中学校整備事業について申し上げます。

統合中学校の整備につきましては、子どもたちの安全・安心な学習環境の確保を第一に、避難所としての機能も備え、令和４年４月の開校に向け順調に整備を進めております。

新校舎建設工事ですが、７月１２日に躯体部のコンクリート打設を完了させ、引き続き内装工事などを実施し、１２月２０日に竣工させる計画であります。

また、福島県 自家消費型 再生可能エネルギー導入支援事業の承認を受け、地中熱 空調システム整備工事や太陽光 発電設備整備工事を発注し、地球環境に配慮した学校施設の整備を進めております。

一方で、各中学校では 来年３月に閉校を迎えることから、記念誌の作成や式典等を執り行うための閉校記念事業の準備に取り組んでおります。

各中学校のこれまでの功績が報われる、素晴らしい閉校記念事業が実施できるよう 支援してまいります。

（文化芸術の推進について）

次に、文化芸術の推進について申し上げます。

生涯学習と社会教育の推進につきましては、体験交流館「学びいな」や図書歴史情報館「和みいな」、総合体育館「カメリーナ」を、生涯学習・社会教育の拠点として、多くの皆さんにご利用いただいております。

ます。

しかしながら、今年度につきましても 新型コロナウイルス感染防止の観点から、各種 イベントや講座なども中止や延期をお願いし、利用される方々には大変ご不便をおかけしているものと認識しており、早期の収束を強く願うものであります。

「学びいな」では、町民の文化活動を推進するため、毎年開催しておりました「夏祭り」を、昨年が続いて中止いたしました。「秋祭り」につきましては開催の方向で検討しており、町民の皆さんの交流の場を提供してまいります。

また、20回を数えます「母から子への手紙」コンテストは、7月1日から募集を始め、コロナ禍による外出自粛もあり、全国から順調にご応募いただいております。10月4日で募集を締め切り、今後、お母さん委員会のご協力のもと、1次選考を実施し、順次 最終選考や表彰式を準備してまいります。

「和みいな」では、「新しい生活様式」を推進するため、在宅で過ごす時間を少しでも有意義に過ごしていただくよう 図書館 パワーアップ事業により 新着図書を増やし 読書環境の充実を図っております。

また、本町が東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録されていることから、夏休み期間中、町民の方々に少しでもガーナ共和国を身近に感じていただけるよう、「ガーナ展」を開催し、

ご好評いただいたところであります。

今後も これら文化施設の適切な維持管理に努め、関係団体と協力し、本町の生涯学習と文化芸術を推進してまいります。

（福島県高等学校駅伝競走大会について）

次に、福島県高等学校駅伝競走大会について申し上げます。

今年も、総合体育館「カメリーナ」をスタート・ゴールに、男子が第66回、女子が第39回となる福島県高等学校駅伝競走大会が、10月28日に、昨年同様、新型コロナウイルスに関するガイドラインを順守のうえ開催されます。

高校駅伝事務局からは、駅伝コースの走りやすさや自然環境、宿泊施設の充実、交通規制などの観点から、本町での継続開催の要望があり、平成26年度から連続して8回目を数え、全国大会の県予選も兼ねていることから40チームを超える参加校があり、事前現地練習等も含め、選手や監督・役員の皆様にご来町いただくことになります。

町といたしましては、コースの設営や運営役員等の人的支援を行い 大会運営に万全を期すると共に、町民の皆さんにもボランティアとしてご活躍いただき、「スポーツ振興宣言の町」猪苗代をアピールしてまいります。

また、第33回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会は、
昨年は 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、郡山市から県庁までの9区間と 規模を縮小した開催となりましたが、今年は例年通りの16区間での開催が予定されております。

猪苗代町のため 懸命に「タスキ」をつなぐ選手の皆さんを 全面的にバックアップしてまいります。

(東京2020オリンピック・パラリンピックについて)

次に、東京2020オリンピック・パラリンピックに係るガーナ共和国事前キャンプについて 申し上げます。

7月23日に開会し 8月8日に閉会しました東京オリンピックでは、7月2日にガーナ共和国選手団として、競泳選手2名、ボクシング選手3名、ウェイトリフティング選手1名、関係者10名合わせて16名が来町され、入念なトレーニングのうえ東京オリンピックに臨まれました。

結果は、ボクシング男子フェザー級のサムエル・タキ選手が、ガーナ共和国29年ぶりの銅メダルを獲得し、男子400mリレー走では、決勝まで進み、7位入賞を果たしました。

競泳の練習会場であった吾妻中学校のプールでは、安全な距離を保ちながら 小・中学校の児童・生徒がガーナ共和国の国歌を斉唱したり、応援メッセージを

記した横断幕を掲げるなど、小さな交流を行うことができました。

また、町内小・中学校全校においてガーナ風給食を提供したり、オリンピック・パラリンピック推進校である緑小学校で、選手村とのオンライン交流を実施したところでもあります。

猪苗代町に縁のあります バドミントン・ミックスダブルスで銅メダルを獲得した、渡辺勇大・東野有紗両選手が是非とも猪苗代町にメダル獲得の報告をしたいとのことから、オンラインで小学生や関係者に銅メダルを見せていただくなどの交流も実施できたところでもあります。

一方、東京パラリンピックであります、入国時、ガーナ共和国選手団の関係者 1 名に新型コロナウイルス感染症の陽性が判明し、同行した 9 人が濃厚接触者となり、宿泊先での隔離生活など、トレーニングが予定通り進まず、関係者はご苦労されたことと思います。

その後、成田空港で陽性となった関係者も、複数回の検査で陰性が確認され、選手団と合流でき、無事に事前合宿を終了してパラリンピックに臨んだところでもあります。

今般の東京 2020 オリンピック・パラリンピックの全国のホストタウンにおいて、新型コロナウイルス感染拡大を受け、各国選手団の受入れを見送る自治体

が相次ぐ中、本町がガーナ共和国選手団を受入れてくれたことに対し、ガーナ共和国のスポーツ大臣やオリンピック・パラリンピックそれぞれの委員長からオンラインにおいて御礼の言葉を、同様に、内堀知事からも感謝の言葉をいただいたところであります。

今後、コロナ禍の状況ではありますが、ガーナ共和国との更なる交流が図られるよう、事業を進めてまいります。

（提出案件について）

次に、本定例会に提出いたします案件は、
町道歩行者損傷事故による損害賠償及び和解の専
決処分等の報告案件が2件、

令和2年度の一般会計、特別会計、事業会計に係る
歳入歳出決算の認定案件が3件、

令和3年度の一般会計並びに特別会計に係る補正
予算案件が8件、

条例の一部改正案件が3件、

指定管理者の指定、財産の取得、計画策定が各1件、
教育委員会委員並びに固定資産評価審査委員会委員の同意案件が計4件の

合計で23件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議の上速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。